

テーマ

『祈り』

平和とは誰かの犠牲と勇気の上で成り立っているものだ考える。その誰かは人々想いを背負って前に立つ。そして背負った想いを届けるため祈りを捧げる。

コンセプト

『Peace』

リサーチ・1

桃太郎をイメージし、華やかで浮世離れしている世界観。自作小説にも書いた「神と人が共に暮らす国」をテーマにリサーチした。



この国は昔、神と人が共に暮らしていた。
ある時、人は、神を怒らせてしまった。
人が神を信じなくなったのだ。
そしてこの国は災厄に見舞われる事になる。
困った帝は巫女を呼ぶ。
神を鎮めるために神楽を舞ってくれ、と。
巫女は言った。
この国のためならば、私が神に祈りましょう。
巫女は舞った。
月光を身に纏い、優雅に、可憐に、華やかに。
神への謝辞と感謝を、そして祈りを込めて。





全体的なイメージは中華とアジアン系。

褶り子を重視しながらのデザインが多い。

裾の方にボリュームを出すことをメインにしている。



プロトタイプ・1

裾の方にボリュームを出し動いた時に広がるようなシルエットにしていた。この時は和風要素も採り入れる予定でバックは帯のようにするつもりだった。その後、ウエストから広げた方が見栄えがいいということで変更。



プロトタイプ・2

ウエストから広がったデザインに作り直し、ライトを仕込むことに。布を重ねることで、霞のような淡い光を出すことが出来た。





身頃があらかた完成している。

パンツのフレアを片方のみ長くし足元にくるボリュームを減らした。

この後、帯の幅も変更し一回りほど小さくなる。

体にフィットするタイプのデザインのため、何回もモデルに着せて確認を行った。

首から肩にかけてのシルエットを綺麗にするのが1番難しかった。

この時はパンツのフレアをどちらも長くしている





チャイナドレスをベースとし、踊り子らしさを出すためにボリュームにしたウエストのフリルと袖。スリットの下にフレアのパンツを入れた。色は神聖なイメージを与える白を基準に、平和を象徴する青を取り入れた。





この写真は実際にモデルに踊ってもらった時の瞬間をコマ撮りしたもの。
腕を大きく降ると袖が広がり、裾のフリルもひらりと舞うように揺れる。

今回、静岡県立美術館にあるロダン館を借りて撮影。袖やウエストのフリルが太陽の光に反射して神秘的な1枚となった。暗いところでは仕込んだライトが狭く光り幻想的な雰囲気になった。



メイクにもこだわり、中華風をイメージ。額に梅花髻を入れてもらい、アイシャドウは赤くし、頬と目の下にラメを入れた。
因みに、梅花髻とは三国時代から唐・五代の女性がしていた化粧のこと。女性としての魅力高め、アピールするためのものだったそう。





スタジオでは、フリルに仕込んだLEDライトをメインに撮影。サイドからバックにかけて光り輝く姿は風情や装を遠慮させる。また、このライトは撮影するカメラの遠いや場所の暗さ加減で光り方が変化する。



この写真は実際にモデルに踊ってもらった時の瞬間をコマ撮りしたもの。腕を大きく降ると袖が広がり、裾のフリルもひらりと舞うように揺れる。



デザイン 川崎万里

モデル 大高彩

メイク 山本雛未